

# IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム 第 16 回会合 議事録

## 1. 会合の概要

日時： 2022 年 3 月 25 日(月)17:00～19:00

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)  
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 12 名

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

飯田	陽一	総務省
小畑	至弘	IoT-EX 株式会社
加藤	幹之	MK Next
上村	圭介	大東文化大学
木村	孝	一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会
高松	百合	株式会社日本レジストリサービス(JPRS)
堀田	博文	JPRS
本田	聖	個人
前村	昌紀	JPNIC
森口	友里	株式会社インターリンク
森下	大	総務省
山崎	信	JPNIC

司会進行： 前村 昌紀(JPNIC)

議事録案作成： 山崎 信(JPNIC)

## 2. 発言録

【前村】 飯田さんがちょっと遅れると言っていましたっけ。

【山崎】 はい。そういうふうにもメールに書いていらっしやいました。

【前村】 ような気がしますよね。

【山崎】 飯田さんのところは後回しにして進めるしかないですけども、河内さんもまだ御登場いただいてないということで、いるメンツでできるメインのところですかね。秋イベントと組織化のところを先にやるしかないですよ。あ、本田さんが手を挙げていらっしゃいます。

【本田】 お疲れさまです。私は今日は、先回で大分懲りたという、やりました前村さんがいつも苦労なさっているんだなというのを身をもって体感したので。ほかの皆さんも順番でやっていただくと僕はいと思うんですけども。もちろん僕も、今日はもうとてもそれどころじゃなくて大変なんです。

【前村】 燃え尽きた感じ。

【本田】 はい。ただ、また改めてほかの皆さん、いろいろな方がされるといいと思いますし、加藤さんなんかかなりそういうマネジメントの御経験も豊富でしょうし、加藤さんに限らず、皆さんいろいろな方がそういうふうやって、仕切っていただくといいんじゃないかなというふうに思います。

それと、私は最初に一言だけ言って、後は今日は聞き専でいようかなと思っているんですが、最近低調ということで、今、この発言は一応前段と思って聞いていただければいいんですが、参加者の皆さんの温度感というか温度差というか、もしくは、過大なふうな負担感があるのかどうかというところはちょっと気になっているところで、具体名を出してしまって申し訳ないですけども、この前の……。お名前が出てこないや。以前発言いただいていた、よく組織化論などで発言いただいていた方も最近お見えにならなったり、特定の方がというだけじゃなくして、多少人が入れ替わるのはもちろんやむを得ないのですが、横へ広がっていく方向でないといけないので、もし何か活動がやりおおせないよというようなことでフェードアウトしていく方がいるんだとしたら、それは切ないなと思いますので、何かいいそういう提案、いい具合で、いいあんばいでやっていけるような方策というものはないでしょうかというのが私のコメントです。

以上です。

【前村】 取りあえず、もうちょっとだけだべりをすると、何かすごく効く方策があるわけでもないですね。幅を増やしていくというの。なかなか取り組みにくいセグメントのことをこれなんかはやっているんじゃないのかなというふうな気がします。やりながら、増えたときには、そのときやっていることがよさそうだとかと思って調整してやっていくとか、地道にやるしかないんじゃないのかなというふうな気がしますけれども。

とはいっても、10人は超えたというところだと思いますので、始めてまいりましょうか。それで、前回の会合、本田さんにそんな形で司会をしていただいて、取りあえず、アジェンダシートがあって、それに従ってということであれば、割と取り組みやすいんじゃないのかなというふうに思うところですので、どなた今日司会進行していただける方がいらっしゃれば、ぜひともお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。会議の定則のようなものは設けていません。設けていない。チャットにもそういう

ようなことは書き込んでないと思います。いいか悪いかというのはまた別にあるんじゃないかと思いませんけれども。

特段に申出がないようであれば、今日は私がやるということで、司会、よろしいでしょうか。

【木村】 よろしくお願ひします。

【前村】 ありがとうございます。それでは、やらせていただきます。

資料が5点あります。今日は、プログラム委員会がいろいろと御検討いただいて、事前会合のお話をたくさんできると思います。それが一番メインになるんじゃないのかなというふうに思います。

本日のアジェンダ。本日の打合せの目的の確認ということで、政府からの検討状況の共有ということで、こちらは飯田さんが少し遅れてお入りになるというふうにおっしゃっていましたね。メインが秋イベントで、実施体制についてとプログラム委員会からの提案ということでお話ししたいと思っています。

あと、組織化の議論というのを、先ほどメールをいたしましたけれども、この2週間ぐらいもやっぱりとか言い訳がましくなってしまうのであんまり言わないんですけども、加藤さんとお時間いただいております。いろいろと、この次は具体的な、こんなはどう、あんなのどうというふうな感じのメモを加藤さんに作っていただいたんですけども、私のほうから御提示して、加藤さんにもお話を伺いながら、皆さんの御意向も伺いながらということで、今日やっていければなというふうに思っております。

前回の議論の振り返りということで、その下にあるのが大体の概要でありますということです。ここは山崎さんに渡していいですか。

【山崎】 じゃあ、山崎から説明いたします。

【前村】 お願いします。

【山崎】 前回、第15回ですけれども、まずは、飯田さんから政府としての検討状況報告ということで、調査委託事業、この中でも取り組んでいらっしゃる方は多いと思いますけれども、それについて情報共有がありました。

本田さんから質問があって、ポイント・オブ・コンパクトとヒューマンリソース、その依頼ですとか、他省庁のエンゲージメントはどういう感じですかという質問があったのに関しては、ここに書いてある方々にコンタクト、国際政策課もしくはデータ通信課の方にコンタクトいただければということです。省内体制はまだ時間がかかっているということでした。他省庁は、話をしているところもあるけれども、交通整理をしてからアウトリーチという感じだそうです。

その次に、川内さんから、第1回MAG会合とOpen Consultaitonの内容が共有されました。

秋イベントについてですが、堀田さんからディスカッションペーパーを基に説明がありまして、まずは、APrIGFの推進体制と比較した結果が紹介されていまして、例えば、チェアが選挙で指名とか、責任

者指名、レポートを正式なものを作成して、みんなでもんで公開、ローカルホストがいる、専任の事務局がいるなどの違いが紹介されました。

2022年秋イベント、これで体制が変わる要因となるものについては、レポートを作るかどうか、ハイブリッド開催ということですか。

このレポートについては、カンファレンス的なレポートだから、そんなに長いものは要らなくて、IGF事務局と我々自身の記録で、セッションごとに1枚とかあればよいということになったと思います。ハイブリッド開催の分は、ハイブリッドをするならばローカルホストが必要。体制案としては、去年と同じであればここに書いたとおりですけれども、エンゲージメントについては、プログラムチームで一体でもいいのではないかという意見もありました。事務局は正式に設置すべきという御意見でした。

経費についてはどうするのか。待ったなしというか、今からすぐに動き出すので、あまり時間がたってからでは遅いということでした。政府から直接できないかという質問に対しては、直接の支出は難しいというコメントが返ってきたはずですが。

プログラムチームの進め方で、去年追加した項目については、セッションの設計を支援することが必要だろう。それと、公募セッションだけじゃなくて、ゲストスピーチと活発化チーム自体が企画するセッションを追加すべきという提案でした。

プログラムチームについては、その時点では2名しか委員の応募がなかったもので、その2名がほかの方に声をかけて、委員を増やすことを最優先として、チャーターとかは後回しするということになりました。

ほかローカルハブですとか、ハイブリッド開催はいつ頃決めるべきかというあたりが出て、エンゲージメントチームは反省を作成するというので、メーリングリストに送付されています。プログラム構成については、プログラム委員会内で作成した案を今日提示いただくということですか。

組織化とユースはスキップということになります。

前はこんな感じですが、以上です。

【前村】ありがとうございます。何か御指摘や御質問などあれば、いかがでしょうか。

ないようであれば、次に進んだほうがいいんですが、次は、もうプログラムのことを話すということですか。プログラム委員会以外の方があんまり多くないのかなというふうな印象も受けましたが。

【山崎】宿題についてちょっと簡単に。

【前村】そうですね。

【山崎】毎回同じようですけれども、今回、15回が追加されているということで、録画は公開はしなくてもいいけれども、このチーム内ではドラフトを回しているという状態ですので、皆さん御覧になれるという状況です。資料はもう掲載済みです。ですので、14回はそろそろラストコールが終わるはずなので、公開できるでしょう。15回は来週半ばを過ぎないと公開できないとそんな状況です。

以上です。政府と御報告は飛ばして、次は、秋イベントということですかね。

【前村】 はい、そうですね。こちらはどなたから。本田さんの手が挙がっていますけれども。

【本田】 宿題のところ、私の宿題も入れておいていただけますか。何度か分散的にはお話ししたんですけど、要は、去年の体制の反省を踏まえて、プログラム委員会が何をどこまでやるかというところ。要は、もう少し、ただ審査をやるだけじゃなくて、拡大をするというところについて、なおかつ、イベントとかエンゲージとかでごちゃごちゃ細かく分割しないほうがいいのではという提案について、もう少しペーパーというか、読めるものを用意するというところがございますので、一応アイデアとしては皆さんに共有していて、おおむね了承を得ているというふうに理解をしていますが、改めて文章化をしないといけないというところで、もうしばらくお時間をください。でき次第、メールで共有するようにします。

【前村】 補足ありがとうございます。

じゃあ、プログラム委員会に行きましょうか。

【上村】 私からですね。よろしくお願いします。

【前村】 お願いします。

【上村】 メールでも流しましたけれども、まず、プログラム委員会がどういう状況にあるか簡単にお知らせをします。

まず、当初、手を挙げた人が2名でしたが、その後、直接、前回プログラム運用なさった方を中心にどうか、まだそれだけか、その方々にもう一回ぐらいやりませんかということでお声がけをして、私を含めて11人が、今、プログラム委員会の構成員となっています。ただ、ステークホルダーバランスが悪い、ジェンダーバランスはもっと悪いということで、今後も引き続き、委員構成を充実させていくということになりました。

これはメモには書いていませんけれども、例えば、企画セッションのようなものを進めるに当たって、そこを担っていただける方に委員になっていただくとか、そういう形で増やすということもあるではないかというふうに思っています。

それから、ステークホルダーバランスが悪いというのは、例えば、プライベートセクターが手薄とか、テックもよく見るとJスターとか、いつもいらっしゃるJPRS、JAIPA、JPNICみたいな感じなので、こんな感じでいいのかなとちょっと思うところもありますけれども、どう増やすかという話ははっきり結論が出ているわけではないので、一応、これだけでは先細りですねというところまでは認識しています。いずれにしても、無事にいくかどうか分かりませんが、発足して、作業をスタートしています。

早速、3月17日でしたっけ、秋会合の全体像について検討をしました。それで、元は堀田さんがまとめてくださった論点、整理してくださった論点に沿って、どういう感じのをするかということですけど

も、ここにすごく簡単に書いてありますが、とどのつまり、募集要項に全てのことは表現されると思ったので、重要なことは募集要項に入っています。ただ、キーノートと公募的な募集型のセッションと、それから、我々活発化チームがイニシアチブを取って企画するタイプのセッションと、それからセレモニーやるならそっちと、そういうものの組合せだろうということは常識的ですけども、これを組み合わせましょうという感じでした。

それで、前回と大きく異なるのは、英語によるセッションを受け付けましょうということ。それから、これは後で御意見いただきますけれども、全体テーマを設定すべきであるということ。それから、繰り返しになりますけれども、活発化チームが仕切るセッションがあったほうがよいということですかね。

そんな感じということ意識しながら、公募要領に落とし込めば、様々な細かいことが見えてくるだろうということで、公募要領の作成に至ったということです。ただ、そこでも関係するんですけども、大枠をどうするか。例えば、いつ開催するかとか、それから公募セッションを何枠設けるかとか、あと、2日に分けるか1日にするかとか、さらに、会場や方式をどうするかというあたりは、はっきりした結論は得られませんが、公募の出方を見てからでもよいというような感じもありまして、これも後でどうするか決めないといけませんけれども、公募のセッションを募るに当たって、どこまで秋の会合の全体像の構成を決めておくかということが1つの検討事項です。ただ、一応、全体像についてこんな感じで話をしました。

それで、3に移っていただけますでしょうか。提案募集ですけども、先ほど言いましたように、全てのことが募集要領に反映されるだろうということで、プログラミング委員会で交わした議論やこれまでの意見などを基にして募集要領をまとめました。それが先ほどメールで送ったものです。そちらについては、この後少し細かく検討させていただきます。

それで、とはいえ、かなり大事というか、この活発化チームレベルでの結論を得ることが必要だろうということが幾つかありました。これについては、募集要領は伏せ字にしておいて、今日場で結論を出し、その結論に基づいて募集が開始できれば募集を開始するし、ちょっとこれだと募集開始には不十分であるということがあれば、3月中と言っていた募集の目標を後ろに倒すということも考えたいと思います。

どんなことに結論が必要であるかという点、まず1つは、会合の名称です。事前会合とか事前イベントという言い方はやめようという話が前回の活発化チームの議論でありましたが、結局どうするかということは決まっていないので、どうするか決めてというのが1つです。

それから、何の会議なのか分からないと、提案する人も参加する人も来られない、来にくいと思うので、もう少し具体的などいって、あんまり個別のテーマに落ち過ぎない会合全体のテーマを設定すべきだろうということになりました。

それから、開催形態です。プログラム委員会としてはオンサイトを前提とするけれども、オンライン

のハイブリッドを検討ということにしていますけれども、ここも一体どんな会議でセッションを持つかが分からないと、応募もしようがないという人もいるでしょうから、決める必要があるかと思います。

それから、先ほど本田さんが宿題だというふうにおっしゃいましたけれども、プログラム委員会の所掌範囲と併せて、前回であればイベントチームとかエンゲージメントチームと言っていたそれぞれのチームの体制を少し整理しないと、前回と同じようなことになってしまうと思いますので、ロジチームのことをどうするか決めていただかないと困るなと思いました。

あと、時期ですね。ここはどっちを先に決めるかという問題ですけれども、10月17日以降の10月中、後半で決めるしかないだろうと思います。幸い、役所もICANN絡みも、この2週間のウインドーであれば、あまり大きなイベントはないということなので、ここでえいやっと選ぶしかないのではないかと思います。

主催、後援については、前回と同じだろうと想像しますけれども、ただ、中の人が誰なのかということがもう少し分かるようになっていたほうがいいたろうという話が出ていました。

あと、もう一つ、英語セッションにおける通訳の要否。要否というか、可否かもしれませんけれども、英語セッションを受け付けるとして、何もしないのか、それとも何か通訳翻訳的なことをするのかというあたり。お金が直接かかることなので、これもまたプログラム委員会だけでウィッシュリストを出せるものでもないので、活発化チームとしての結論が必要なものとして挙げてあります。

取りあえず、ざっと説明しましたけれども、何かからしたらいいのかな。募集要項をこんな感じで用意していますという説明させていただけるでしょうか。先ほど申し上げたように、現段階だと、多分、募集要項を見たほうがイメージがしやすいと思うので、ざっと説明します。

まず、上からですけれども、名称の件は先ほど申し上げたとおりです。どういう名称にするのか。仮称だと、この会は本気で本当にやる気があるのかということにもなるでしょうから、仮称でない名前が必要かと思います。あとは、日付はさっき言ったとおりです。

それから、まず、事前イベントの概要ですけれども、公募をする際に何に応募するのかが分かっていたほうがいいと思うので、最低限のイベントの概要をこんな感じでまとめたらどうかと思っています。その中に全体テーマも入れる。それで、当初は、例えば、2日間でそれぞれ4枠設けるので、そのうち2枠公募しますみたいな形で募集が始められればとも思いましたけれども、もしかすると、そこまでの構成がはっきりしていなくても、こんなセッションがある中で今回募集するのはテーマセッションですぐらいの情報でもよいかもしれないと思って、今はこのような書き方にしています。ただ、いずれにしても、まず、そもそも何のイベントのセッションを提案しろと言われているのかが伝わるようなインフォメーションを入れました。

次が、テーマセッションです。これまで公募セッションと言っていましたけれども、前回の会合がテーマセッションという形で募集をしていましたので、テーマセッションとここでは呼んでみえています。

この辺から少し議論が必要なところですが、まず、内容です。これは前回と同じものをほぼそのまま使っていますが、「政治・経済・国際」「テクノロジー」「生活・環境」「文化」「制度」やその他関連する課題についての内容を扱ってくれと書いてありますが、この「政治・経済」から「制度」までがこういう表現でいいのか、もうちょっと別の表現が必要なのかというあたりが1つ考えどころです。ちょっとそれは置いておきます。

形態としてはパネルディスカッション形式ということをはっきり書きました。

時間です。前は30分から45分までの間ということでしたが、あんまり時間の自由度があると選ぶ際もちょっと面倒だし、前回、30分では明らかに短い、45分でも短いという印象だったので、もうここは60分決め打ちというような形にしたらどうかと思っています。その上で、登壇者が話しっぱなしにならないように、時間の制約を少し、あらかじめつけました。前は、この辺も含めてどういう提案をするか、提案者の内容を見たいということでしたが、そういう自由度を削って、60分使ってパネルディスカッションをちゃんとしてねという形で提案を募集することにしてはどうかと思って、このような内容になっています。

主要言語が日本語または英語で、ただし、同時通訳などはありませんと書いてありますけれども、現段階で書けるのはこんな感じかなと思います。

募集件数については、プログラム委員会とかでは明示しなくてもいいんじゃないかという話もあったんですけど、私の一存でこれを入れて、今は入れてあります。というのは、1人しか合格しないのか、複数合格するのか、可能性があるのかが分かっていたほうが応募する方にとっては親切ではないかということもあり、ちょっと入れてみましたが、ここはプログラム委員会で御意見くださった方、もし何かあれば後ほど伺いたいと思います。

応募資格とか参考については以上です。

話が長くなったので、ここまでで何か皆さんからお気づきのこととかあるでしょうか。どうでしょうか。

【前村】いかがでしょうか。

【加藤】加藤ですけども、よろしいでしょうか。

【上村】お願いします。

【加藤】上村さん、すいません。プログラム委員会に手を挙げながらも欠席ばかりで、よくないんですけども。

質問というか、教えていただきたいんですが、今回、英語セッションをやるという部分について、イメージとして、日本にいる人で英語をしゃべる人も1人入ってくるイメージなんですか。それとも、むしろ、積極的に日本の人が1人入るけれども、海外の人とIGFアジアや本会議でもやるような感じのもう一回日本にも持ち込もうというぐらいのイメージでこれは英語セッションをお考えなんですか。



【上村】 申し訳ありません。あんまりはっきりしたイメージはありませんが、どちらもあっていいのではないかと個人的には思います。つまり、日本にいる人が英語で発信するのもあるでしょうし、海外にいる英語を話す人がたくさん来るセッションみたいなものもあっていい気がします。

【加藤】 このことをいろいろ考えて、かつ、IGFってこんなイメージだということを知ってもらうためにも、後者の海外の人も入れて、海外でこんな専門家がいて、そういう人と一緒にこんなことをやっているというイメージのセッションが1つぐらいあっても、全部それだと結構疲れてしまうかもしれないですけども、1つぐらいあってもいいかなという気が僕はするんです。

だから、せっかく英語セッションを入れるというなら、描いているイメージがそういうのもいいということを書いて、そういうことを、じゃあこの際ほかでもやっているようなのを持ち込もうかというような方も今回参加してもらうチャンスがあるといいかなというふうに思いました。

【上村】 ありがとうございます。もしかすると、それは活発化チームが企画するセッションをそういうのにしてもいいかもしれないですね。

【加藤】 そうですね。

【上村】 誰かやってくれるのを待つというだけではなくて。でも、いずれにしても、加藤さんおっしゃったようなものも何となくイメージしながら書いてみます。

【加藤】 そこまでやってもいいよということを書いてやらないと、日本語だけじゃない英語をしゃべる人も入ってくるのかなぐらいに思ってしまう。今までの流れだとそうですね。過去のIGFの日本の報告会のイメージだと。それとは違うことを今後やっていくということも可能性としてあるなら、そういうものがあるというのを明記されたほうがいいような気がします。

【上村】 ありがとうございます。ただ、それを始めると、一気に全てのドキュメントを英語にしなきゃならなくなる。

【加藤】 いや、それは日本側でコーディネートする人があって、あくまで日本のイベントに海外からも参加してもらうというのを入れるんだという、そういう言い方だと思うんです。

【上村】 そうですね。

【加藤】 そのときに英語でどこまでやれるかというのは、同じようにアジアでやる場合なんかも、その国の言葉で現地の人たちがしゃべっていて一部英語でやるというのに僕なんかも参加したことありますけれども、そういうイメージで彼らは、海外の人は捉えて、英語でしゃべればある程度通じているかなということで、細かい運営とか何かは分からなくても、そこはもう仕方がないのかなという気がするんですけども。主催者がそれを全部補填するというのは、全部英語化するというのは、僕はちょっと難しいと思います。

【上村】 今、加藤さんがおっしゃったようなイメージの英語化であれば、割とdoableな気がするのですが、では、そうできるようにしてみます。

【加藤】それで、そのセッションの説明も英語でいいんですけどただポーンとするんじゃなくて、日本でまとめる人が欲しいとかそういう要求をつけてもいいんじゃないかと思います。セッションの説明で、審査に当たっては日本語の説明もつけてくださいという。要するに、日本人が1人入って、コーディネートしてくださるのはあなた方ですということでもいいんじゃないでしょうか。

【上村】分かりました。では、そういう形にしてみます。

じゃあ、ざっと何を提案する人に書いてもらうかというところをさらってみたいと思いますけれども、提案いただく内容のコーナーに移っていただけるでしょうか。

7項目です。まずは、何語でやるかということです。ここは先ほど加藤さんがおっしゃったような、準備までは日本語だけど、当日、登壇者が英語だけで議論するというのが可能でぐらいなそんなイメージになるようにちょっと表現を変えてみます。

提案者については、前回、1つのメールアドレスしか聞かなかったので、直前まで連絡がつかなくてやきもきしたというケースがあったので、代替連絡先を入れることにしましたが、ただ、その代替連絡先がこれだと、2つ目のメールでいいのか、メール以外の携帯番号を教えろなのか、あるいは、別の人の連絡先を知らせとけなのかがよく分からないので、ここは事務的に後で整理をします。

テーマです。テーマは、今回、英語のセッションであるかないかに関わらず、サマリーをまとめるときに英語のタイトルはあったほうがいいと思うので、これは両方もらうべきかなと思っています。なので、ここもこの段階だと何語で書けばいいのか完全に分からない気がするので、少し整理が必要ですが、いづれにしても、テーマを聞きますよね。

それから、次も前回とほぼ同じですけれども、全登壇者のお名前とステークホルダー区分を聞きます。それから、登壇者については未定でも予定でも構わないということで、そういうことを教えてもらうということにしています。

ちょっとここで御意見をいただきたいことがあります。何かというと、ステークホルダー区分の分け方です。UNの基準だと、政府・国際機関で1つ、プライベートセクターで1つ、学術と市民社会を合わせたシビルソサエティーで1つ、それからテクニカルコミュニティで1つという4つの区分だと思えます。ただ、前回は、政府、ビジネス、学術、その他の6つの区分を立てました。国連基準に合わせるべきというのもっともだし、細かく分けたほうがよいというのもっともだしということで、ここはIGFを日本ですることのそもそものコンセプトとも関わるので、どうやって分けたらよいかというのがPCレベルでは結論が出ていません。後ほど御意見を聞きたいと思います。

それから、内容についてです。「政治・経済・国際」以下列挙されていますけれども、どういう列挙がいいのかというのは、もう少し何か検討の余地があるのかなという気がしますけれども、これでいいですかねということです。

それから、公開可否です。オーケーかNGかを聞くということです。

あと、その他。ここ、6、7はそんなに前回と大きな変化はありません。どういうことを書いてもらうということですが、前回、採点項目にしたものの幾つかを、例えば時間配分とか、幾つかを削りましたので、その分、審査を仮にするとすると、使える情報はテーマと登壇者と内容ぐらいしか実質的になくなるので、やや実際に採点して選考するとすると苦労するかもしれません。場合によっては、内容を自由記述ではなくてももう少し細かくしたほうがいいかなという気がしています。

下へ行っていただけるでしょうか。関連事項として幾つか追加しました。関連事項とタイムラインですね。そこに幾つか応募者に対するメッセージを追加しました。1つは、サマリーを書けということですが、ここでは300字程度と書いてありますけれども、我々がセッションの内容をサマリーにまとめるのは大変なので、企画した人にできるだけ協力をしてもらおうということ、しかも、それもbullet pointで多分いいと思うので、取りあえず300字程度書いてねということはこの段階で言うとおこうと思います。

それから、もう一つ、タイムライン、今映っている3行目にありますけれども、この登壇者の確定というのを、前はこういうステップを設けていなかったもので、何となくだったら、いつまでに確定させればよいか不明瞭だった点もあるのではないかと思います。これはもう募集の段階ではっきりと書くことにしてはどうかということです。

あと、タイムラインは何がありましたっけ。会合の開催とサマリー期限ですね。サマリーは関連事項にもあることの繰り返しですけども。

こんなことを聞こうと思っているということですが、ざっと見ましたけれども、様々な依存性がありまして、ちょっと振り返ると、名称をどうするか、全体テーマをどうするか、日程や構成、開催形態をどうするか、あとは、ここには表現されていませんけれども……。あ、表現されているか。位置づけですね。主催とか、Japan IGFとの関わりとか、NRIとしての位置づけとか、そんなあたりが、全てでなくても名称とか全体テーマあたりは固まらないと、この段階で募集を始めますとは言にくいのではないかと思います。したがって、今日のこの場である程度、相当の結論が出なければ、会合1回分ぐらい延ばすということも考えなければならないのではないかなというふうに思っています。

ちょっと長い説明をしてしまいましたけれども、プログラム委員会にお出になっていた方とかメールを御覧になっていた方から、加藤さん以外に、何か補足がありましたらお願いできますでしょうか。なければ、一旦、前村さんにお返ししますけれども、いかがでしょう。

【前村】 皆さん、いかがでしょうか。山崎さん、どうぞ。

【山崎】 ちょっと細かいことになってしまいますけれども、3番のテーマです。テーマと言うと、イベント全体のテーマとかと混同するんじゃないかという気がして、タイトルとか題名とか何かそういう用語を使ったほうが混乱が少ないんじゃないかと思いました。

以上です。

【上村】ありがとうございます。私もさっき自分で読んでいて、そんな気がしました。セッションタイトルと言っていますから、タイトルにしましょうか、そうしたら。いずれしても、変えることに異論はありませんので。では、タイトルで。

それから、全体テーマについては、プログラム委員の中で案を募ったものがあるので、もしかすると、こちらを見たほうがいいんですかね。この中から選べれば、選ばなければならないわけではないですけども、選べれば、あるいは、組合せとかりファインして使えるものがあれば、それを使うということですけども。ここまでプログラム委員会では決められないよということで、こちらに投げているような感じです。なので、プログラム委員会としては、我々の中に入っているのはこんなものですよというのを出すところまでで、あとはお任せしたいという。誰に委ねるかということもありますが、お任せしたいというのが我々の立場です。

ちょっと読みますか。輪郭がはっきりした課題を扱うというタイプの提案が幾つかあって、それはデータのガバナンスとか利用保護でしたけれども、あるいは、インターネットの課題の広がり不案内の人に伝えようというような感じのテーマ設定の案もありました。世界で・日本で・私の中で熱いインターネット関連の話題とか、今知るべき、あるいは議論すべきインターネット関連の話題とか、インターネット最先端の課題を探るとか、そんなものでした。

あとは、インターネットのガバナンスの在り方をもうテーマにどーんと出してしまうというものもありまして、「インターネットって誰のもの」とか、「つぶらな瞳で聞いてみる：インターネットはどうやって運営されているのか」、「インターネットISPのものじゃない」とか、「さあ、立ち上がろう！利用者本位のインターネット」とかそういうものがありました。

あとは、インターネットの将来とか未来の姿を問おうというタイプのものも幾つかありまして、「インターネットはどれくらい自由なの」、「インターネットはどこまで世界を変えるか」、「インターネットのない世界を想像できるか」というようなものでした。

見出しは私が取りあえずえいってつけたものなので、必ずしもきれいではないかもしれませんが、検討の参考になればなと思ってつけています。

堀田さんが手を挙げていらっしゃいますかね。

【堀田】上村さん、ありがとうございます。今入ったばかりで、今までの議論は分からないですけども。

もともと、どんな提案でもスコープに入るようにする、かつ、インターネット・ガバナンスという単語が分かりにくいから、取っつきやすい呼び方にするぐらいの感覚で私はいたので、あまり輪郭がはっきりして、この範疇とかと言わないほうがいいのかというのが私の感覚でした。

以上です。

【上村】ありがとうございます。

堀田さんに指摘をされて、1つ言い忘れていたことがあるのを思い出したんですけれども、全体テーマを設定するという事は、恐らく、全体テーマと整合的な提案を要請して受け取るとか、そういった審査にも影響すると思います。もちろん、それとは関係なく全体テーマを設定するという事もありますけれども、その辺も含めて、テーマを設定することはまかりならんという方はいらっしゃらないと思うんですけれども、そういうそもそも論も含めてどうなんでしょう。プログラム委員会では、いろいろ準備していくとテーマは必要だねということになったので。そこは、じゃあやっぱりテーマを決めましょうということですか。

小畑さん、お願いします。

【小畑】テーマの設定の前に、そもそもこの事前イベント、2022IGFは関係があるんですか。関係がないんですか。

【上村】何とですか。テーマと？

【小畑】いや、ですから、テーマというのは簡単に言うと、この事前イベントの骨子みたいなものじゃないですか。その骨子を決めるのに当たって、そもそもこの事前イベントは何のためにやって、何をしようとするのかははっきりしないと、骨子は決まらないですよ。

【上村】そうですね。

【小畑】事前イベントと言っているからには、2022IGFの事前は間違いないですよ。だけど、事前なんですけれども、どういうものなんですかというところをはっきりさせれば、例えば、これが2022IGFへの導入みたいなものであるんだとしたら、2022IGFのテーマを引っ張ってくるべきですよ、きっと。関係なく、2022をやるんだけれども、日本も何かやろうよというなら、全然関係ないテーマを設定して、日本特有のテーマを何か設定してもいいでしょうし。そもそもIGFってどんなものだと知るといっただけなら、また、もっと広いテーマでもいいかもしれないです。

何でも受けられるようにテーマを設定するのなら、それは逆にテーマは要らないんじゃないですかね。どれにも当たるような、要するに、提案が出てきたら、どの提案が出てきても、これはこのテーマに即しているよねということ、それは逆に言うと、テーマがないということですよ。

【上村】そういう議論も確かにありました。

【小畑】だったら、テーマはなくてもいいじゃないですか。

【上村】会合の名称が、国内事前会合でいつまでいるのかと私は前から言っていますけれども、国内事前会合のような、あるいは、インターネット・ガバナンス・ミーティングとかであれば、もうワンランクかみ砕いたテーマが必要じゃないかという話をしていました。なので、小畑さんがおっしゃっていることとうまくリンクするのかわからないですけれども、会合の名称とも関わる事だと思っていて、それでこういう案を出してみたということですが。これはプログラム委員会に振られてもやや困るなというレベルなので、前村さんに、一旦、手を挙げていらっしゃるのでお譲りしたいと思います。

【前村】ありがとうございます。手を挙げたのは思うところがあったからなんですけれどもね。

まず、事前会合という名前にするのかわからないのかというのは、前からこちらの活発化チームの会合でも話題に上げていまして、私もどうするのがいいのかなというふうに思っているんです。事前会合というのは、いみじくもというのか、グローバルIGFの前にやるから事前会合で、これの含意としては、これが想起されるものというのは、グローバルIGFに向けて準備をしよう、例えば、どんなセッションがあるか見てみようとか、グローバルIGFってどんなものなのとかというふうなチュートリアルがあるとか、何かそういうふうなことが想像されるんですけれども。NRIとして国内IGF活動をしていくという上では、年次会合をやるというふうなことのほうが重要で、年次会合ということにしたらいんじゃないのかなというふうにちょっと思います。

それで、小畑さんがおっしゃっているように、何でも収容できるようなテーマというのは、サブテーマというより、それはもうテーマじゃないよねというふうなことは確かにそうだなというふうに思うんですけれども、例えば、グローバルIGFとかですと、今年は、カトヴィツェはInternet Unitedというのがそれでしたっけ。というふうなサブテーマを何かしら書いて、ただ、応募されるセッションというのは、そこまでユナイテッドというテーマに引きずられてないような感じがする。そういうふうな感じの雰囲気は、インターネットウイークのテーマも、その時々になにか書くんですけれども、それを意識してプログラムを書く人もいるし、あんまり意識しない人もいるというふうなところに似ているのかなと思ったので、そういうふうなテーマを書いてもいいとすると、IWみたいなものになるなという感じもちょっとするんですけれども。

それをブロードにするのか、あるいは、こういうテーマで今回お話ししましょうよとするのかというのも、皆さんで、プログラム委員会というよりもこの場でどっちにしましょうかねというふうなことを議論して決めていけばいいのかなというふうな感じがします。

2つ言いました。以上です。

【上村】そうすると、これはいずれも、あの中から今日選べというわけには当然いけないと思うので、どうしますか。

【小畑】まずは、会合の位置づけを先に決めないといけないんじゃないですか。テーマの話はその後ですよ。

【前村】そうかもしれないですね。

【上村】そういう意味では、早く募集をかけましょうということで、先にこの話だけ切り出して作業を始めてしまっているところがあるので、小畑さんおっしゃるところはもっともですね。作業を始めてみると、そこにぶち当たっていて今日に至るという感じです。

【前村】これは皆さんの感覚もお伺いしたいんですけれども、私としては、前から言っているようにというか、私自身がそう思うんですが、事前会合というよりも年次会合というふうな形で、年に1回、これ

がメインでこのNRIをやっているんだというふうなことで、報告会というのはグローバルIGFどうだった、そうだねというようなことは、全然やるべきだと思うから、やったほうがいいんだと思うんですけども、事前というよりも年次会合というふうな形にしたほうがいいんじゃないのかなというふうに思っています。

堀田さんの手が拳がっていますね。

【堀田】おっしゃったように、前回の議論の中で、グローバルIGFの事前というか、国内版っぽくするのか、日本独自色にするのかという話を前回議論して、日本っぽくていいんじゃないというふうになっていたと思ったんですけども、違うんですかね。前回、随分それは議論しましたよね。

【前村】ような気がしますね。はい。

【堀田】日本で取りあえず底上げしなきゃねと言って、グローバルIGFのテーマ、その中に引っかかるものもあるだろうけれども、その縮小版とか相似形じゃないでしょうという話を前回したように記憶しているんですけども。

【前村】私もそういうふうに思います。そうじゃないほうがいいという方がいらっしゃるかなというのが今の記憶で。

【堀田】いや、もう一回議論するなら、してもいいですけども、この様子で行くと、全く議論が進まないというか。議論じゃないな。収束していかない。だから、決まったというか、仮にでも決まったことが決まったように絞り込んでいかないと、毎回同じ議論をしている気がします。

【前村】事前会合って、ついつい事前会合という言葉を使ってしまったからいけないんじゃないのかなと思うぐらいなんですけれども。秋の会合とかそういうふうな言い方もしてまして、そっちのほうがまだ、たちがいいのかなと思います。

【小畑】ただ、独自の内容かどうかというサブセットとかそういう議論と、それとIGFという枠組みとして、日本のIGF、グローバルなIGF。ある意味それはサブセットじゃないですか。もちろん、直接、組織的に上に上げていくわけじゃないので、テクニカルなサブセットではないですけども、大きな活動で言うと、世界でやっている活動、地域でやっている活動、日本でやっている活動という意味ではサブセットだと思うんですよね。

もちろん、そこにほかのところではどうやっていますかというのを入れるために、例えば、加藤さんがおっしゃったように、海外の人も入れてみると、その人はほかの国とかほかの地域でやっているIGFというそういうようなエッセンスを持ち込んでくれるから、それが日本でやっている活動に対して何らかの刺激があるんじゃないのというのはもちろんそうなんですけれども、それはあくまでもオプショナルな話で。活動としては、多分、世界のIGFから地域のIGF、日本のIGF。そこは多分……。何といいたすか。

という話と、それとテーマは、テーマを上げていくときに、グローバルなIGFのテーマのサブセット

を日本でやるかというのは、また全然の話だと思うんです。2022のグローバルでテーマはこうなっているので、日本としては、それ全部は扱えないのでこの辺をやりましょうかというのもあるかもしれないですけども。

あと、もう一つは、活動の進め方はどうであるかというのに依存すると思うんですけども、少なくとも組織化しないといけないのは、もう去年からずーっと皆さん共通の認識で、それで、これが、今回の名前を事前会合と言うかどうかは置いておいて、年次会合だったとする。それはその組織の年次会合なんですよ。活発化チームの年次会合ではないじゃないですか。そうすると、本来であれば、そもそも、組織をつくって、その組織のほうから年次会合はこうしましょうというのはいいですけれども、中身だけ全部我々でつくって、それを組織に対して押しつければ、何となく、組織化の話も重要な話だと思っているんですが、そもそも会長は誰なんですかというのはあるわけです。あと、理事は誰なんですかとやって、本来、組織の運営は会長とか理事という人たちが進めていくものなので、それを我々もつくるのであれば、そうすると、我々が中身をつくって、それで押しつけるというようなスタイルになると思うんです。

そうすると、じゃあ、もう既に押しつけられるような人の候補とかがいない限り、一般的にどこから探す、誰々お願いしますといったときに、中身はもうこっちで決めたのでよろしくと言ったら、「あ、そう。じゃあ、そっちでやってください」となるだけだと思うんです。

【前村】組織化の議論は、今日、この後やろうと思うので、さっきもうプログラム委員会のほうからありましたけれども、さっさと募集したほうがいいよねというところが先出しされて作業が進んでいるというようなことで、それを押しつけるとかと言うほど他人じゃないのではないのかなと。こういうふうな活発化チームのモメンタムの中で物事が進んでいて、それを本格化するために組織をこしらえるわけですよ。

なので、そこを、そもそも組織ができてなかったらプログラムがつかれないじゃないかと言われてたら、今やっていることをすごく、3か月ぐらい前までに巻き戻す感じになるので、それはやめたいと思います。

【小畑】気持ちは分かるんですけども。私も会社とか組織とかいっぱい立ち上げに関わってきましたけれども、結局は、誰がリードするんですか、誰がお金出すんですかというところへかなりのところは左右されてしまうんですよ。

【前村】どうしましょう。じゃあ、やめます？

【小畑】いやいや、そういう意味じゃないけれども。もうちょっと何か、さっきのテーマの話までずるっと戻すと、当たりがありながら進めるならいいんですが。そういう全体の大きな流れの中で、最終的にこういう組織になりますよって、こういう人たちにお金を出してもらいますよとか、こういう人を会長にしますよという。別に個別、別々の人が決まっていたりスポンサーが決まったりする必要は、



そこまではないとは思うんですけども、でも、全体的な流れ、簡単に会社をつくる時に、誰が金を出すか分からないんだけど、取りあえず会社つくってみようかな、こんな会社なんだけれどもねと言って、それで、ぐるぐると世の中を回って、誰か金出してくれませんか、誰か金出してくれませんかって、何となくやっているようにしか見えないんですよ。

【上村】 すいません。手を挙げている方が2人いらっしゃるんですけども、私が割り込ませていただいで。

途中切れてしまったんですけども、前回話したときには、グローバルな 이슈は企画セッションで拾い、ローカルな 이슈を提案型のセッションに反映させてみましょうということだったので、そういう形でやろうというふうに決めました。もちろん、やり直すんだったら、別に私は異論はありません。ただ、グローバルのIGFとの関係については、そのように前回整理をしました。

それから、提案募集、募集受付をするかどうかは、冒頭に申し上げたように不確定要素が大きいので、このままは無理かもねと私は個人的には思っていましたので、そのことも含めて、1会合分先延ばしにするとか、少なくとも、そういうことはありだと思えます。

すいません。勝手にしゃべってしまいました。

【前村】 本田さん、加藤さんの順番ですかね。

【本田】 加藤さんからでいいですよ。

【加藤】 いや、本田さんからと思ったんですが、よろしいですか。じゃあ、短く。

まず、今回のプログラム委員会の方向性、僕はこの方向性でいいと思います。日本の限られた時間で、範囲で、今までの流れの中でやるべきで、堀田さんが言われたとおり、一度議論したのをもう一回、これで何を今回もやるんだという蒸し返しはあまり必要ないんじゃないかというふうに思います。

もう一つ、これはまた後で組織化の議論に関わるとは思いますが、かなり小畑さんが突っ込んで言われたので、私も民間企業の経験から言ってあれですけども、この組織化の議論というのは、民間企業の営利企業でお金を集める、それで営利目的を達成するということとはかなり違って、非営利で、公共ために、みんなでインターネットをよくするために議論しようということであって、ここで決めたことを後で決めた理事に押しつけるとかそういう発想は全くないし、そういうことはワークしないし、実際、ここでみんなが議論してやろうと言ったら、やろうと言った人たちがまたその後もみんなで集まってやるという、そういう運営になっていくと思うんです。それに合った組織をつくるというのが本来のことであって、全く違う、入れ物だけ組織として持ってくるという議論は、組織化の議論でもよくないし、それじゃワークしないというふうに思っています。

だから、組織化の議論は別途やるということで、今、このプログラムの話は、僕はこういう流れで進めていただいたほうがいいと思います。

以上です。

【前村】 大体加藤さんと同じことを考えていたという表明をして、本田さん、お願いします。

【本田】 私もほぼ加藤さんにアグリーです。

確かに、組織化は重要なんですけれども、組織化ということと今回のプログラムというのはまた別物というふうに考えたほうがより自然ですし、より目的を達成するという意味では、より達成すると思います。その目的は何かというと、日本でIGFの概念を広めるということですね。今回、レポートなんかを読んでいて思ったんですけれども、アフリカの人たちとか、アラブの人たちとか、いろいろな、たまたま私が引いたセッションは、そういうそれぞれの地域セッションというのがありまして、それぞれの国連組織とか、それぞれのイギリス連合、アフリカ連合というそういう中で、さあ、僕らをローカルに、リージョナルにどういうふうにインターネットを変えるみたいな、ガバナンスをそろえていくんだみたいな話がすごく斬新的に出ていてよかったなと思うんです。

対して、APACはどうなんだと。日本がAPACを引っ張っていかないといけないと思っているわけでもないんですけれども、やっぱり日本はどうなんだ、APACはどうなんだといったときに、まず、中国がよく分からないスプリントインターネットだし、じゃあ日本はどうなのか。日本もIGFをやっているけれども、どこまで準備しているのかなとか、結構、なかなかシビアな部分、状態だなと思っているんです。

その状態から脱却するためには、いろいろな人を呼び集めていかないといけないし、そのためのアドバルーンだと思っているので、このプログラムというのは。いきなり来年になって、はい、来年、2023にIGFやりますと言っても、誰も寄ってこないと思うので、何がしかそういうふうなアドバルーンを上げて行ってというところでしかなくて、今、見かけ上、ちょっとしょぼいというか、組織員も組織立ってやれているわけでもないし、手弁当の探り探りでやっているようなところで、必ずしも望ましい状態ではないことは確かに事実なんですけれども、できる範囲からまずやっていく。そして、資金面も含めて、どうやって皆さんの協力をより大きいものにしていくかということを狙っていかないといけないので、小さく始めて、スモールスタートだが、その行く先は大きくなっていくだろうというのが私の希望、そして願望でもあります。

【前村】 小畑さん、お願いします。

【小畑】 2点あるんですけれども、まず、1つは、先ほどの私が言ったことは、営利企業的なところ、側面から捉えられたと思うんですが、それは必ずしも営利企業じゃなかったとしても、つまり、活発にみんな議論をするような場をみんなのお金を出し合っつけてつくっていきましょうというのも、当然、それぞれの組織なり寄附する人は判断をするわけですよ。その人たちが判断できやすいような、そういう方向性というのをつくるんだと思うんですけれども、それが一体何なのかというのは、私は少なくとも今の時点で明確になっているわけではないと思っているんです。

それと、じゃあその枠組みと、要するに、じゃあそこに対して、つまり、これが年次会合だというふ

うに消化していくというものだったとすると、そうすると、普通考えて、今回やった手続とか議論の進め方というのが今後の組織の年次会合のひな形になるわけですよ。そういう意味で、じゃあ、ずっとこういう形でやっていくんですか。今回は、そうすると、これはアドバルーンですけども、全然また違うわけです。アドバルーンというのはひな形と違いますからね。そのところをきちんと議論したほうがいいというのが1点。

2点目は、もしグローバルな議論のほうはテーマセッションでやって、それで、ローカルな話は募集してやるというのであれば、そういうあれば、明確なテーマを、我々として2022の日本のローカルなテーマであるというのを活発化チームないしはプログラム委員の中で具体的に決めて、もうこれで行きまですってやったほうがいいと思うんですよ。かなり具体的なテーマで。そうじゃないと、これはローカルな日本のテーマですよと言っているやつが、いや、どんなものでも募集できますよと言うのであれば、全然言っていることが相反するので。

そういう意味で、もし本当にローカルなテーマとして、ローカルな話題をこの提案募集の中でやっていくのであれば、我々として、今年のローカルなテーマって日本の場合何でしょうということをちゃんと考えて、それで出していったほうがいいと思うんですよ。

もちろん、その中で、必ずしもグローバルのIGFも同じでしょうけれども、必ずしもそのテーマと見合うものが出てこないかもしれないですが、それはそれとして、採用するときに、本当にそれ入れたほうがいいのか、入れる必要はないのかというところを審議すればいいだけの話なので。でも、何もないとか、あと、すごく抽象的なものを持って、これが日本の2022のローカルルールなテーマですよというのであれば、それだったら、もうないほうがいいんじゃないかなと思うんですよ。

【前村】 本田さんの手が挙がっているけれども、その前に、すいません。本田さんがお答えいただいてもいいんですが、プログラム委員会としては、募集するセッションに関して、テーマを特定の分野に絞り込もうという意図はあんまりないということかなと思ったんですけども、その辺どうなんですか。

【本田】 上村さんを含めたプログラム委員の中の議論の中でも、なるべく全体が拾えるように、どんなものが来ても拾えるように、ただ、大枠としてはこの方向性というもののの中で、いろいろ案が出ましたよね。要は、これは全体の表題みたいなものなので、インターネットのそもそもガバナンスについて日々理解を広めるのか、それとも、インターネットの今、未来ということを使うのかとか、そこだけなので。正直、何か御懸念されているようなグローバルだローカルだという対立軸はないんですよ。何が来てもいいというところと、どっちでもないというのが私の意見です。つまり、グローバルな内容をやったほうがいいんですけども、もちろん。だけど、いきなりグローバルIGFとは何ぞやかんぞやと言っても、誰もついてこないんですよ。IGFってなんですかというところから来ているわけですから。

まず、その入り口の一丁目のところからやるということと、とはいえ日本ユーザーが多いわけですから、日本で、例えば、LINEの勝手にデータ移転問題がありましたよねとか、何とかとかですねとか、プ

ラットフォーマーがいろいろ跋扈していますねとか、そういうようなことで、ウクライナでもいいですし、何かそういうような個々個別の話題から、これって実はIGFにつながっているんですよというところに導くまでのところなので、そういう意味ということを含めて私はアドバルーンと言ったので、別に、グローバルだローカルだという対立軸には持っていかないと思います。

【前村】今の御発言の感想は、インターネット・ガバナンス、IGF活動とかIGFとかって何なのかなというのが分かってもらいやすいようなセッションをつくりたいなというふうな感じですかね。1つ、プログラム委員会で議論した全体的なお考えとしてあるのは。

【上村】セッションというよりは、全体。

【前村】全体がということですね。

【上村】インターネット・ガバナンスの会議があるんです、来てくださいと説明して、インターネット・ガバナンスって何を話すんですかと言われたときに、同語反復ではない形で、こういうこと話しますと伝えられるようなテーマでよいと思うんです。多分、そういうテーマを提案しましょうということだったと思います。ただ、今、例に挙げたものは、ちょっと濃淡はあると思いますけれども。

そういう意味では、私が話を聞いていて思ったのは、この2つと3つ目のあたりのようなテーマを選ぶのがプログラム委員会の趣旨には合うのではないか。つまり、インターネット・ガバナンスって何の議論しているんですかと言われて、とはいえ、「インターネットって誰のもの」というのは魅力的なんですけれども、それが知らない人に通じるのかなというのもちょっと微妙に思うので。

【前村】哲学論になりそうな感じがしますよね。

【上村】なので、課題の広がりを取り上げるものとかそんな辺りがいいかなと思っています。ただ、個別のことというよりは、テーマのレベル感というのはそういうものでした。

【前村】分かりました。ありがとうございます。

あと、年次会合という言葉の使い方を何回かしていますけれども、これも少しミスリーディングな可能性があって、アニュアル・ゼネラル・ミーティングとか総会みたいな意味合いになってきますので、そうすると、それはそもそもどういう組織の総会なんだというふうな感触を惹起してしまうなと思いました。「事前」と言うのがグローバルIGFをすごく意識した言い方なんだけど、そうじゃなくて、国内IGF活動として1つでやる会議というふうなそんな感じの意味合いだったと思うので、もしその部分がミスリーディングなんだったら、年次会合という言葉も使わないほうがいいのかなという感じがしました。

【小畑】総会、要するに、組織の決議をするための会合と組織として年に1回やる会合は全く別なので、そこはあまり問題はないと思うんですけどね。

【前村】でも、それがすごく組織の本質的なものでありみたいなことで、今こうやって議論をどうにか組立てていこうねというふうなところが沿わないんだしたら、それはやっていることが本末転倒になってしまうなと思ったんですよ。

【小畑】ただ、結局、目的としては、インターネット・ガバナンスに関わる活動をもっと活発にしまし  
ようというのは目的じゃないですか。そこはもうずっとぶれていないと思うんです。

【前村】そうですね。

【小畑】そうすると、ある意味、やり方というか見方というのは2つあると思うんですけども、とにかく何でもこれはIGF何でもIGFと言えるようなテーマをつくって、あ、それIGF、これIGF、皆さんどんどん応募してくださいと。これは多分、魅力があるときはそれは行けると思うんですよね。ここに行ったら、発表するとすごいメリットがあるんだけど、これってインターネット・ガバナンスだったっけと思っ  
ている人たちに対して、いや、それは大丈夫、それ大丈夫っていうのはあるんですけども、もう一個全く逆なのは、IGFってこんなもんだよという具体的なテーマを言って、それで、いや、あんた何かあるんじゃないの、あんた何かあるんじゃないのここちから持ちかけるというやり方あると思う  
んですけども。どっちかで私は今の日本状況を考えたら、後者のほうかなと思っていて。

【前村】ちょっといいですか。つまり、あえてテーマを絞ってやってあげたほうが、これぞインターネット・ガバナンスだ、これぞIGFだというものづくりやすいみたいなこと……。

【小畑】という気がしたんですよね。

【前村】なるほど。

【小畑】それをどこまですごく細かく言うかは別ですけども。例えば、今回は、インターネットの分割  
というか……。何と言うんだ。

【前村】スプリンターネットに……。

【小畑】そうそう。そういうようなことを主にやりましょうというようなところを言うのか、それはいろいろあると思うんです。別にすごい具体的にやる必要はないんですけども、例えば、インターネットは今分割の危機にあるみたいな。あんまりスプリンターネットみたいなことを言わずに。というふうに、そうすると、中国ってもう既に分割しているじゃんみたいな話も出てくるかもしれないし。

そういうような感じにしたほうが、インターネットってどうやって動いているのとか、ガバナンスって何なのというような曖昧なことにしてしまうと、一体何を応募していいんだろうみたいになるかなという気がしたんです。もちろん、それはあくまでもできるだけ、例えばこのテーマでやりますと言って、必ずしもテーマに縛られることはないですよとは言うんです。とは言うんですけども、具体的にイメージとして湧きやすいかなと。例えば、インターネット分割の危機にあるみたいなテーマになったとした場合に、実は全然俺は関係なくて、使えない人はいっぱいいるんだけど、困っているんだよねみたいなテーマに持ってきても、ある意味親戚みたいなテーマじゃないですか。

そういうふうにやったほうが、結局、言い換えると、オーディエンスは誰ですかというところで、呼びかける人たちは誰ですかというところで、多分、自分たちは今、インターネット・ガバナンスに関わっている  
とあんまり感じてない人に入ってこいと言うほうが、インターネット・ガバナンスに関わって

いるんだけど、どこにも場がないから困っているという人よりも多いような気がするんです。

【前村】どうぞ、本田さん。

【本田】確かに御発言はもっともだなと思うところもあり、確かにというところもあるし、ぜひ、プログラムづくりの中に反映していきたいなというふう感じたところもあるんです。小畑さん、別にプログラム委員を一応募集はしましたけれども、結局2人しか手を挙げなかったんで、あとの方はこちらからお願いして去年の方に入っていただいたというような事情なので、私はオブザーバー参加という方のスポットで来ていただいて、今のようなお話を、こうあるべき論というのでも構いませんので、お話しいただくのは全然ウエルカムだと思うんですよ。

ですので、ぜひプログラム委員会のほうで、わざわざ分割してつくっているんで、そちらのほうでぜひ御発言でも、もしくは、何かしていただくというのはいかがですか。

【小畑】都合が合えば。

【本田】もちろん、ここで今お話もあれなんですけど、ほかにもまだもう少しやらないといけないことがあるので。この御発言は大変参考にさせていただきたいと思いますが、確かに、やるやらないではなくて、そもそも論で何やるのというところですよ。そこのところは考えた上で、想定をした上でプログラム募集をしないといけないというのは、全くそのとおりだと思いますので、そういう何の見込みも見立てもないまやってしまうよりは、よっぽどやらないほうがいいということにもなってしまうので、そこは重々承知をしていますので。そこはプログラム委員の中にももう一度話を戻させてください。ぜひ小畑さんも御発言いただけるようだったら、予定を合わせさせていただきたいと思います。

【小畑】分かりました。

【本田】どうでしょう、前村さん。

【前村】プログラム委員会のほかの方々、そんな感じかなということであればいいんじゃないですか。

【上村】私はテーマを決めたくないんで、プログラム委員会に持ってこられたらちょっと困るなと思う。小グループができて、その中でとかだったらいいかもしれません。

あと、私と本田さんだけが最初手を挙げたという話ですけども、その後、私が声をかけた方も、同じように責任感を持って引き受けてくださると思っていますので、手加減するつもりはありませんので、よろしくをお願いします。

【前村】上村さん、プログラム委員会としてはテーマを設定すべきとの結論だけれども、プログラム委員会では設定したくないということですか。

【上村】はい、そうです。そういうオーダーではなかったからです。だから、そういうオーダーだったら、オーダーが受けられるかどうかも含めて考えると思います。オーダーの問題です。

【前村】プログラム委員会で決めないんだったら、結局ここで決めるということですね。

【上村】そうですね。そういうことになるかもしれない。

【前村】 ですよ。

【上村】 ただ、プログラム委員会も、前回みたいにすごいロジ的なセレクションだけではなくて、もうちょっと広く仕事しろという話もあるんですけども、プログラム委員会のスコープが今どこか分からないので、今、やや慎重にポジションを確保している状態です。

あと、この後、企画セッションをするんだったら、どういうテーマで何するのという話をしなければならなくなるんですよ。そこは、小畑さんとか加藤さんとかそういう方にアイデアをいただけるというと思ってまして、そこで、小畑さんさっきおっしゃったようなことは当然反映すべきかなという気がします。Internet in dangerみたいなそういうのはぜひそこで拾うべきと思っていますけれども、今日はそこまで用意はないので、今後どうするかという感じでしょうか。いずれにしても、テーマについては先ほど申し上げたとおりです。

あと、小畑さんがいるついでに、これもぜひ伺いたいんですけども、前回セレクションしたときに、ステークホルダーがカバーされてないという話がありましたね。前は、イベント全体でレプレゼンテーションが取れてればいいということになりました。そこは今回も、小畑さんだけに聞くわけじゃないですけども、今回もそういうことになりますか。それとも、個別のセッションにもステークホルダーバランスをもう少し求めることになりますか。

【前村】 筋論から言うと、もちろん、IGFの全てのセッションで、完璧なしステークホルダーバランスが取れているわけじゃないですけども、多分、審査のときには相当言われるんですよ。私もAPrIGFに幾つか提案したときに、それを明確に落とされたこともあるので。逆に言うと、そこをあんまり意識せずに提案募集したとすると、それって世界に通用しないよね。

【上村】 では、今回のというか、募集を開始する段階で、どこまでどう表現するのかを決めたんですよ。今の書きぶりだと、多分、「望ましい」なので、例えば、あんたバランス悪いから落としますとかと明確には言いにくいと思うんですよ。その辺をどうしたものかというのと、あと、ステークホルダー区分が今6つあるんですけども、国連並みに4つに減らすとかという意見もあったりして、これはまたセレクションするときもめそうだなと思って、今、やや慎重に決めたいと思っています。

【前村】 6つあるのは何でなんでしたっけ。

【上村】 6つあるのは何でなんでしたっけ。ちょっと私も前回、そこまでの経緯が把握できてないんですけども。活性化チームの申込みのときに……。あ、堀田さんが御存じ。お願いします。

【堀田】 グローバルには4つでしたっけ。政府、ビジネス、技術、市民社会。

【前村】 たしかそうですね。

【堀田】 学術というのが市民社会と一緒にグローバルではなっていると思うんですけども、これは分けたほうがいいんじゃないという話が日本だけじゃなくて全体的にもあるようなので、これは分けてみたということと、あと、ユースというのを1つのステークホルダーとして見たほうがいいんじゃないと

いう話があったので、6つにしてみたというのが去年の経緯です。

【上村】そうでしたか。学術と市民社会を分けたほうがいいという話があるというのは私も知らなかったもので、失礼しました。そういう流れの先にあるということだと、ユースも明示的にしたほうがいいかもしれないので、6つでもいいかなと今思い始めているんですけども。

【前村】ユースをステークホルダーセグメントとしてrecognizeするというのは、今年も色濃かったですね。相当力点が入っていたような感じがしますね。

【上村】それは、今年というのは……。

【前村】カトヴィツェというのか、IGF 2021で。

【上村】IGFでもユースを別枠に今出しているんですけど。

【前村】例えば、MAGにユース代表を入れろとか、これは多分通っているんですよ。それとか、いや、もっといっているのは、Tech Envoyと定期的にユース代表と対話しろとか。これもレコメンデーションとしては上がっていたりとかして。ユース側から。

【上村】なるほど。そうすると、6つあったほうがバランス取りやすいから、いいかもしれません。

【前村】先取りしていてもいいのかもしれないんだけど、ただ、それじゃユースを連れてこなきゃみたいな足かせというのか、難しくなるということかもしれない。ただ、それはもう請け負ってやる苦勞なのかもしれないなと思いました。案だけど。

【上村】プログラム委員会の中では、国連基準のほうが今後のことを考えるといいんじゃないかという声もありましたけれども、どうでしょう。今の話を聞くと、6つにしておくことにも意味があるような気がします。じゃあ、この話は……。

【小畑】6つでも4つでもいいと思うんですけども。

【上村】いや、そこはセレクションするときに結構後になってから出てくると思うので。この段階で曖昧にしたいくないんですよ。6つでも4つでもいいという話じゃ私はないと思います。

【小畑】6つ、4つかという話と、その上にある3以上なのか4以上なのかというのは多分関係してくると思うんですよ。簡単に言うと。

【上村】はい。

【小畑】だから、4つで3以上というといいかなという気がするんですけども、6つで3以上という、4以上なら分かるんですけどという気がちょっとしました。

【上村】後半は、当然そういう議論もあり得ると思うんですけども、私はそこまで考えていなくて、6つの中から3つ選ぶほうが楽だから、6つのほうがいいかもというその程度でしたかね。

【前村】あともう一つは、結構、2021のIGFをつぶさに見ているんですけども、今。そうすると、もう政府だけとか、結構、すごいな、こんなので通るんだとかというのを目の当たりにしていますね。例えば、OECDプラス4か国の統計局が出てきて、どういう調査をすればデジタルインクルージョンが実



現するかとか。どこにも市民社会とかいないじゃないかよとか突っ込みながら見ていましたけれども。

【上村】 どうしましょう。そうすると、区分は6つの前回と同じ区分にしておいて、ステークホルダー区分をカバーする件については、複数出たら多いほうを優先するというに当然なと思いますけれども、その辺りでしょうか。ちなみに、「3名以上とし」だから、4以上のステークホルダー区分をカバーすべきとは書けないですね。なので、「3名以上とし」だったら、3以上としか書けないんですけれども。ビジネス、学術、技術だけで3つとカウントするかというのは、ちょっと微妙な感じはありますけれども、どうしましょう。いずれにしても、区分は6つにすることにしたいと思います。

ただ、そもそも論の話を伺っていると、この段階で見込み募集をかけるのもあまり適切ではないのかなという気がしていますけれども、どうでしょう。私が急いだのは、以前、反省会的な話をしたときに、中央大の実積先生が、研究者に話をさせたいんだったら、相当リードタイムを長く取らなければならないという話がありましたので、そういう人たちを意識して早めに、少なくともオープンスロットがあるよということだけでも伝えられればなと思って、少し早回しに作業を試みた次第ですけれども。逆に言うと、あんまりそういう人たちを当て込まないのであれば、もう少し準備を整えてからということもあり得るかもしれません。

【前村】 その辺はいかがでしょうか、皆さん。すいません。カメラがなぜか死んでしまいましたので、失礼します。ごめんなさい。

特に異論がないというふうに承っていいのであれば、それで進めたらいいんじゃないかなと思いますけれども。

【上村】 ごめんなさい。進めたらというのは、募集を開始するということですか。

【前村】 それでというのは、6つのセグメントで3つ以上好ましいぐらいなんじゃないのかというところだと僕は思ったんですけれども。

【上村】 では、そこはそうように進めたいと思いますけれども、そもそもそのテーマというか、このイベント何なのというあたり、名称とかも含めて。メイキングの段階から参加してくださる人募集という尋ね方もあるかなという気はしたんです。ですけれども、どうですかね。メイキングから付き合ってくれる人というんだったら、もう少し表現を変える必要があるかなと思うと、それでも、その段階で手を挙げさせていいのかということの判断の材料に対象になるかもしれません。

【前村】 早めにこんなのあるよと名のりを上げて、ただ、締切りが早いわけじゃないですね、きっと。

【上村】 締切りは、2段階を実は考えていました。

【前村】 なるほど。

【上村】 これは山崎プランに既にそれがあったんです。2次募集のようなことも含めて、5月末ぐらいの締切りの予定でいました。ただ、もうちょっともみますか。もむというか、事前イベントの日時とかテーマとかその辺を、どっちが先かなんですけれども。

【前村】例えば、3週後に決める、3週シフトして、そこから1次募集が始まるというのだと遅いんですかね。

【上村】実績先生みたいに早くしろという人を気にしなければ、決して遅くはありません。そこは……。

【前村】現実的な線なのかもしれません。堀田さんの手が挙がりました。

【堀田】去年は7月頭だったんですよね。募集を開始したのは。ただ、去年はある意味、公募の形は取りましたけれども、内輪で集めようとしてそれで集まったので、本当に外に向けて公募っぽくしたいのであれば、もうちょっとかかるということだと思いますけれども、別に3月下旬に急いでやらなきゃいけない理由にはならないから。

【前村】では、次回ばっちりというか、次回に決めるということで、その間にきっちり詰めておくということのほうが好ましいのであれば、そういうふうにするのがいいんじゃないのかなという感じがします。

【上村】私はそれで構いませんけれども、かっちり詰めるというのがどこなのかという。

【前村】そうですね。そのイメージも僕はないので、すいません。やった分だけ納得がいくということなのであればとかそういう意味で。

【上村】堀田さんの手が挙がっているのかもしれませんが、提案いただく内容は多分これ以上、英語の件を少し追加する位だと思うんですけども、外枠ですよね。そこをどうするかというのはどうします？

【前村】どうでしょうかね。今、堀田さんの手が挙がっておりたのは……。

【堀田】今、外枠だったというか、何と何を決めたら、決めたになるんですか。まず、主催者は活発化チームですね。というのは前回そう決めたとするんですけども。今回、間に合わないから、取りあえず、少なくとも主催者は活発化チームということにして公募しましょうという。だとすると、小畑さんもおっしゃっていたように、年次会合というのは何か変ですね。次の日というか、正式になってから年次でしょうと言われると、まあ、おっしゃるとおりだよなと思って、年次会合でもないし、IGF 2022事前イベントでもないしということで、上手な名前を考えましょうと、それは1つ必要だということですよ。

それが決まると大体公募できる感じなんですかね。あとは、6とか3とかというのは、取りあえず、どこかでえいやするしかないんで、あと、そんなに決めなきゃいけないことが残っているような気はしませんが、どうですか。

【前村】そうかもしれないですね。会合の名前で、年次会合というのに抵抗があるのかなと思ったんですけども、事前会合という名前でもいいのかなと思いました。だから、適当な名前がないから、IGF 2022の事前という会合の名前をつくるけれども、そんな認識はしないみたいなそういうプロセスでもいいのかなと思いました。単に名前づけで悩むよりもと思ったんですが。

いずれにしても、何か名前をつけて、会合に対してタイトルをつけてやらないといけないんです。本田さんの手が挙がりました。

【本田】そもそも論なんですけれども、私の認識が違っているのかもしれませんが、要するに、この目的というのは、IGF 2023に向けて2022の最新の最近のアップデートをしましょうということですよ。だから、23に向けての啓蒙イベントという。

【前村】啓蒙というのか、活発化のためにIGF活動をやろうというイベントだと思っていますけれども。

【本田】そうですね。だから、別に2022にこだわって、じゃあ、2022のそれに出る人の準備をしましょうという会合の、今まではそうだったかもしれませんが、そういう意味合いはちょっと薄れている。

【前村】うん。ないんじゃないのかなと思っているんですけども。これは皆さんの感触はあるのかもしれない。

【本田】そういう意味でも、事前会合というのはちょっとそぐわしくなくて、あくまでIGFスピリットを啓蒙するというそういうもので、その理由は、2023のジャパンというものが目途にあるわけけれども、それにこだわらず、IGFのそもそも理念を広めて、より間口を広げましょう、いろいろな人に知ってもらおうというところの取っかかりなので、そこをこだわってしまうと、やっぱりまた内輪に戻ってってしまうと思うんですよ。

【前村】何かいい感じの名前があれば、ぱんっと決まってしまうかもしれないんですけども、それが難しいから、もう事前でいいじゃんと言ってしまうのが僕なんですけれども。という話を今……。

【本田】ですから、IGF啓蒙イベントとか何かそういうようなことじゃないですかね。インターネット・ガバナンスについて知る集いみたいなことですよ、要は。

【小畑】まず、会合というのは、IGFってフォーラムなので、会合ではないじゃないですか。だから、「事前」のほうもあるけれども、この「会合」にもちょっと違和感があるんですよ。

【前村】「会合」というのが、ミーティングを「会合」と言っているだけで、あまり「会合」という言葉自体にこだわりはありません。

【小畑】だから、「会合」のほうは「フォーラム」とかでもいいような気がしたんですけども。「イベント」というのも何か、名前に「イベント」がつくイベントってないですからね。

【前村】まあね。

【小畑】例えば、もうそれこそ、ぐっと割り切って、IGF何とかフォーラムというのはどうですか。フォーラム、フォーラムって英語で見ると重なってしまうんですけども、そこはちょっと……。

【前村】まあ、それはBGPプロトコルみたいなものなので、あんまり気にならないです。

【小畑】そうそう。だから、IGF……。

【前村】何だったらIGFフォーラムでもいいと思う。

【小畑】 そう。でもいいぐらいかなという気がしましたけれども。

【本田】 「フォーラム」と言うと格好いい感じしますよ。よくインプレスさんとか、ああいうところでよく募集かけているやつ。クラウドフォーラム。

【前村】 ただ、その名前が変だという重箱の隅を好んでつづく人はいますよね。と思ったけれども、まあ、いいや。つつかれても構わないけれども。

【小畑】 それか、ちょっと趣向を変えて、インターネット・ガバナンス会議2022とか。

【前村】 インターネット・ガバナンス会議って、その前に「日本」をつけたらIGCJの正式名称なんですよ。いろいろとコンフリクトが出てくるんだよね、そういうのって。ここでJapan JGFとか言ってしまうのは、多分駄目なんですよ。いろいろ柔らかか頭で考えている最中なんですけれども。

【上村】 そこは早めに整理しておけば、名のれるんじゃないでしょうか。

【小畑】 何か言う人はいるかもしれないですけども、別に、JAIGFとかJapan IGFでも全然……。そもそも、NIRって大抵みんなどんな名前がついているんですしたっけ。

【前村】 いや、国名やIGFが一番多いと思います。やっぱり。

【小畑】 EuroDIGみたいなやつで、特例なんですね。EUだから。

【前村】 EUですけども。

【小畑】 UK IGFとかUS IGFとか。

【前村】 そんな感じの名前がやっぱり多いです。Japan IGFというのは、Japan IGFだと思っている人たちがそれでいいよと言うんだったら、それでもいいのかもしれないですね。

【小畑】 Japan IGF 2022ということで、将来的には、例えば、Japan IGFというふうにして、年は入れない形ですけども、2023のJapan IGFとか、Japan IGF第何回会合とかそういうふうに行って、現時点で、何かすごい、その辺りのややこしい話をあえて曖昧にするために、Japan IGF 2022みたいに。

【前村】 割とそれはいい妙案だなと思います。これどうですか。Japan IGFという言葉にこだわりがある方々がここには多いと思うんですけども、いかがですか。

【上村】 私は、そこはそもそも論が関わると思う派ですけども、思わない派の方が多かったです。ただ、ちょっと何か始末が悪い感じはします。(聞き取れず) いただくとして。

【前村】 ちょっとその辺の事情が分かったり分からなかったりする人たちがざわつく可能性はあります。

【上村】 結局、乗っ取ったみたいなことを言われますよね。乗っ取ったって、でも、当事者が乗っ取っているのかもしれないけれども。

【前村】 当事者が。

【上村】 でも、あれ何だったんだという話は、ちょっと私としては気になります。

【前村】 そうかもしれないです。確かに。

【上村】 ただ、でも、この機会にという。

【小畑】 それか、さっき私が言ったように、日本インターネット・ガバナンス会議2022みたいな。あえて「フォーラム」は外してしまう。

【上村】 名称の件は、私がどうこう言うことじゃないんですけども、そうすると、先ほど堀田さんは名前が決まれば募集が始められるんじゃないかとおっしゃっていましたが、その2択でどっちかに決まれば、この内容でちょっと修正すれば流せるということですかね。

【前村】 そういうことになりますね。

【上村】 日時とかは、そうすると、下旬のままで出しますか。それでいいですか。提案が上がってきたところで止める。

【小畑】 提案の締切りは？

【上村】 締切りは、取りあえず、今のタイムラインだと5月末か6月の初めです。

【小畑】 それを入れてですね。

【上村】 提案の締切りは入れますけれども。そういえば、それ書いてないですね。下に書くつもりだったんだ。

【小畑】 応募期間、採否通知は予定でいいような気がしますけれども、さすがに、応募期間が予定だと……。

【上村】 もちろん入れますよ。このXが入っているところは全て数字を入れます。

全体テーマはどうされますかというお声がありますけれども。何の会合がよく分からない名前だったら、絶対必要だということ。

【前村】 そういうことですね。

【上村】 名が相当に体を表しているんだったら。

【小畑】 だから、日本インターネット・ガバナンス会議とか、Japan IGF 2022とかだったら、テーマじゃなくて、サブテーマじゃないですかね。

【上村】 そういう意味であれば、サブテーマが必要ですかという質問になると思います。

【小畑】 あったほうが応募するときにイメージは湧きやすいと思うんですけどね。

【前村】 加藤さんの手が挙がりました。

【加藤】 ありがとうございます。どうも先ほどから1時間ぐらい蒸し返しの議論がずっと続いているような気が、僕の勝手な反応ですけども、思っています、今のテーマを決めるとかというんだったら、幾つか案をこのメーリングリストに出して、その中からみんなでこれがいいというのを選ぶとか、何かそういうふうにして、もう少し2時間の時間、今日、いろいろほかにもカバーすることがあると思ったんですけども。非常に、皆さん貴重な時間を使っているの、もったいないような気がします。

以上です。

【前村】 すいません。それは司会をしている私の責任でございます。とてもいいサジェスションだと思いますので、会合名とテーマに関しては少し、テーマに関して、プログラム委員会からこんなのでどうでしょうということを何択か出してもらって、それを元にメーリングリスト上で1週間ぐらいで考えるとかなんか感じでいかがでしょうか。2週間なのか、週末越しなのか。

【上村】 プログラム委員会としては、さっき出したものがあるので、それを元に皆さん練ってくれと言いたいところなんです。

【前村】 なるほど。

【上村】 どうですかね。

【前村】 会合名に関しては、どなたかにお願いしてもいいんですけども、どなたもいらっしゃらないようでしたら、私が3案、4案ぐらい考えて、それで皆さんからの案も付け加えながら、どれにしましょうかねというのをやりましょうか。

じゃあ、そんな感じで、メーリングリストの上で議論できるような形にして、今日はこの辺にしておきましょうか。大丈夫ですか。

【小畑】 できれば、プログラム委員会が出てきたあのテーマを文書的にテーマっぽいやつに焼き変えてくれるとありがたいです。そのままABCで議論できるような、それぐらいの……。それは可能なんでしょうか。

【前村】 それは可能なんでしょうか。

【上村】 それは誰が可能ということですか。

【前村】 プログラム委員会としてはということで、上村さんに答えていただけるとありがたいなと思いました。

【上村】 文書的というのは……。

【小畑】 例えば、1番、「インターネット上のデータのガバナンス」。これは行けるような気がしているんですけども、「インターネットはISPのものじゃない」って何か全然テーマっぽくないですよ。

【上村】 すいません。今回、見出しを振っただけで、そういう調整はしてないので、これ駄目だと思っただけで没ということじゃないかと思って。

【小畑】 そういうことですか。

【上村】 すいません。どうしようかなと思いましたが、その話もありますけれども、じゃあ、3週間後ですね。少なくとも。早くても。

【前村】 ぱっと1週間ぐらいでメーリングリスト上で収束するんだったら、それぐらいで出せることは出せますけれども、それはディビジョンとしてあんまり堅くないですかね。

【上村】 と思います。この話ばかりできないでしょうから。分かりました。

【前村】分かりました。じゃあ、そうしましょう。次回ということで。

ほかに何かありますか。

それでは、すいません。堀田さん、高松さんも19時からということで、あと十分で取りあえず何をしようかなということなんですけれども、恐らく、加藤さん、組織化のところを少しでも話をしたほうがいいですかね。

【加藤】僕はもう、それはお任せします。議長にお任せします。

【前村】いずれにしても、今日、時間が取れる感じではなくなってしまいました。それは司会者の責任なんです。御紹介をするというのは必ず必要だと思っているので、それを5分ぐらいでできるかなと思いましたが、それを試してみようと思います。

すいません。じゃ、スクロールスクールなどお願いします、山崎さん。これはメーリングリストで御紹介しましたけれども、今まで何回か組織化の議論をしていたんですけれども、今回は、少し具体的なことも実装イメージから考えてみたものです。組織化の形態としては、任意よりも法人化がいいんじゃないのか、一般社団なんじゃないのかというふうなことが書いてあります。一般社団化しても、すると少しコストが上がるんじゃないかと思ったんですけれども、事務局代行業者としては、月額50万ぐらいで一般社団をやっているケースがあるようなので、コストに跳ね返ることじゃないとすればこれは、法人化したほうがいいんじゃないのかなというふうに思っていますが、組織の形態のところにはそういうふうなことが書いてある。

それで、定款の記載事項としては、これも一般社団の定款のひな形みたいなカバーしなきゃいけないことはあるし、それから、目的がシャープに書き出せられれば、定款として書けるのかな。

それから、次に、法人名というのを決めなきゃいけないんですが、これは1つのアイデアとして、親しまれ、かつ、内容に中立的なものということで、「みんなのインターネット」というふうな例が出てきますけれども、法人化を考える上ではどういう法人名がいいかというのは、皆さん少しイメージを湧かしていただければいいと思います。

主たる事務所の住所としては、どこかの団体の住所、ポストアドレスを借りて郵便の受け取りとかをするということかもしれないし、事務局代行であれば、事務局代行をやっているところの会社に引き受けてもらうということもあるかもしれません。

社員総会に関しては、これは社団の核となる場所なので、社員を誰にするのかというのはいろいろときっちり考えたほうが良いということだと思います。

ちょっと繰っていただいて、ここで具体的な案として、法人はABCとして少しグラデーションというのか、額に差があって、支持の大きさというのか、持てる分だけ10万でも出していただきたいし、50万出せる人は50万ということで、3クラスでどうかというふうなことが書いてあります。

その上で、個人会員として、例えば、年間5,000円以上で個人会員を募るということで、これは5,000

円でも引っかき集めてお金が欲しいというよりも、個人に総会議決権を持つような関与をお願いするということがいいんじゃないかなろうかと。逆に、ただで文句だけ言う人に総会を荒らされたくないとかそういうふうな意味合いもあるということなんじゃないかなと思います。

総会で何でもかんでもやるというのは現実的ではないので、理事会に日々の執行は委ねたほうがいいんじゃないのか。理事会の構成としては、マルチステークホルダーのセットアップにしたほうがいいんじゃないのか。

次に、事務局と事務局長なんですけれども、ここは事務局長として常勤を雇うということになると、そこそこと事務処理能力がある方を雇わなきゃいけないんですが、ここも少し検討の余地があるということでしょうかね。

あと、事業内容としては、イシューグループとそこに書きましたけれども、内容を扱うような委員会を立てていくんじゃないのかなというイメージがそこに書いてあります。それと運営グループ。活発化チームというのは、多分に運営グループの色彩が濃いというふうに思います。

それで、法人の収入源というところに行きますが、会費と寄附金というふうなことで示してありまして、ここでは、政府から何らかの形で支援金がいただけないかというふうなことが書いてあります。

というふうなことで、少し具体的などころのイメージマップみたいな形でメモとして書き出しておまして、今後のスケジュールに関しては、まだ、いつまでにとすることは書いてないというところなんですけれども、次回までに、この材料から具体的な法人のイメージみたいなものをつくって、それから定款とかを書いていくと、あんまり長くなく立ち上げられる、法人登記までできるんじゃないのかというふうな気はするんですけれども、その中で会員になっていただける方はどんな方なのかというところも進めていかなきゃいけないので、もう少しきっちり、いろいろなことをやるという前提でスケジュールを考えていく必要があると思います。

ということで、いずれにいたしましても、このドキュメント自体はメーリングリストに書いたURLから皆さん御覧いただけますので、そちらを見て、いろいろと御指摘をいただければというふうに思います。

加藤さんから少し、私が漏らしたようなところがないかコメントいただきまして、皆さんから今聞きたいということに関して質問をいただきたいと思います。いかがでしょう。加藤さん、お願いします。

【加藤】ありがとうございます、もう全部カバーしていただいて、私はこういうことを進めて、恐らく、この回で今まで皆さんが議論していただいたことが反映されていて、細かいところで特に案とか書いてある部分というのは、例えば1つの案ということであって、そこはこれから決めればいいことなんですけれども、こういう大枠の枠組みを決めて、定款を作って、それをファイルすれば法人ができるということで、今、準備会合の立場とかいろいろ議論していますが、それと並行してこういう仕組みができていくというので、そういう形でスピード感を持って進めたほうがいいんじゃないかなというふうに思い



ます。

そういう意味で、スケジュール的には、本当にもう4月中には会社をつくってしまうとか法人をつくってしまうというようなことも十分視野に入れて、この枠組みだけでも早めに確認していければいいのかなというふうに感じています。

以上です。

【前村】ありがとうございます。御質問、御指摘など。上村さん、お願いします。

【上村】先にすみません。今のJapan IGFとか、IGF-Japanとか、それからIGCJをどう清算するのかというこのスケジュールの裏面には書いておくほうがいいと思います。今日は指摘だけで失礼します。

【前村】分かりました。小畑さん、お願いします。

【小畑】JAIPAの例なので、必ずしも普遍的かどうか分からないんですけども、多分、理事長の任期とかを決めないといけないと思うんですね。

【前村】小畑さん。そういうのは当然、この定款に加えていろいろなルールをつくる中で、どういうふうに理事は選任します、それで、理事の互選というのがあって、任期は2回までとか3回までとか、そういうのをその中に書くというのは通常だと思います。そういう意味で、多分そこは、その段階でコメントしていただければいいのかなと思います。

【小畑】なので、言いたかったのは、事務局長と兼務すると結構、事務局長、事務局機能と理事、理事会は完全に分けておいたほうがいいと思います。

【加藤】それも1つだと思います。ただ、理事長とか事務局長にあまり負担がかからないような仕組みのほうがいいのかなというような気がします。ある意味じゃファンドレイジングの顔になる方であって、ただ、その人にすごい時間を取るんじゃなくて、基本的にこれは全員ボランティアベースでまずは考えるべきで、そういう人にすごいお給料を払って常任にするというような予算は難しいと思うので、そういう意味でも、事務局長といっても、ほとんどの仕事は外注できるようにして、なるべく負担を減らす。

それと、理事長というのは、理事会もどれぐらいの回をやるか、それも3か月に1回とかそういうレベルでいいと思うんですけども、そういうことも実際細かい、定款はそこまで書かないですが、ルールは決めることになると思います。

【小畑】あと、会費を取るということですけども、法人から会費を取るためには、結局リターンは何ですかというのをきくと説明させられるので、その辺りもきちんと決めておいたほうがいいです。

【加藤】そうですね。これは、もう時間があれですけども、そもそもこの組織というのは、そのリターンが、さっきの営利の目的と違って、インターネットをみんなで安心・安全なものにするとか、みんなが使いやすくするという、例えば、大企業であれば、自分もある意味の社会貢献、フィランソロピーの一環で、大手企業はそういうことを、自分たちも参加していますということで少なからずのお金を払うのは許されるというか、義務だという考え方があると思うんです。まさにそういう非営利のみんなで

インターネットという非常に重要なインフラを支える場をつくったということでポジティブに取って、そういう会費を払ってもらえる企業を少しでも説得して、理解していただくということかなと思います。

そういう意味で、具体的にこういうことをここで提案して、こういうということを可決してくれるから自分の会社にとって得になるとか、そういう利害をむしろ求めるような人はちょっと考えを変えてもらいたいというのが今の会費の発想であって。

【小畑】 もちろんそうなんですけれども、そういうみんなでインターネットを盛り上げていきましょうというのもリターンじゃないんですか。ですから、それが明確になるような……。

【加藤】 そこがこの最初に書いてある目的というところですよ。この組織はこういうことをやって、誰も自分のお金もうけにやるんじゃないですと、そこをもっとはっきりと書いておくべきだと思います。

【小畑】 そうですね。

【前村】 大事なことをきっちり書くというのは本当に大事なことだと思います。

時間が限られておりますので、いろいろとメーリングリスト上で御指摘いただきながらやっていければと思います。

【加藤】 流れとして、まず、こういう方向で一般社団法人をつくらうということでやれば、並行して、今、小畑さん御指摘のような点を、どんだんルールづくりをしていくという、そういうものへのコメントをいただくということで進めていただいたらどうでしょうか。

【前村】 いかがでしょうか。私としては、そうやって進めていくということによって、活発な御議論をオンラインで、あるいは、これもオンラインなんですけれども、こういう会合のときにもやればと思います。

それでは、本件、そんな感じで、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

ほかになんですけれども、今日の議題としては、あと、飯田さんはお入りになって、まだいらっしゃいますか。そうしたら、河内さんは今日は御欠席のようなんですけれども、飯田さんから何か現況の御報告などあればいただければと思います。

【飯田】 お疲れさまです。非常に重要な議論していただいてありがとうございます。実務的なこういう議論をやっていただくのが大事だなということで、大変ありがたく思っております。

IGFグローバルのほうの動きとしては、今のところ、前回以降は特段のあれはないんですけれども、エキスパートグループというのが急にできまして、これが月末にニューヨークで会議(Expert Group Meeting, EGM)を開催します。要するに、IGFの在り方みたいなことについての議論をまたやることになっています。この位置づけとか、いま一つ、私どものほうでも把握できてないところもあるんですけれども、招待状が一方的に来まして、ただ、ニューヨークに行っていられないので、遠隔で参加して対応しようと思っています。

この辺も、これですね、今年のプロセスの中で議論がなされている、一応、エチオピアのIGF 2022と

いうものもあるけれども、国連事務総長のロードマップですとか、コモンアジェンダですとか、あと2025年に予定されているWSIS+20ですね。ここでIGFの10年間を総括して、見直しするということになるので、そういうものも念頭に置きながら、IGFをどう強化してマルチステークホルダーの枠組みを残していくのかという、中にはそうじゃない意図を持って参加している国やグループもありますので、そういう議論がいろいろな形でなされているということかと思えます。

あと、もう釈迦に説法なのであれですけども、ウクライナの状況で、非常にロシア国内でもいろいろなサービスが遮断されたりしている中でも、ロシアの市民が一生懸命ネット上で真実の情報を集めて、戦争反対というのをロシアの中から訴えている人もまだいるということが、非常にオープンで開かれて、分断のないインターネットのバリューというのを図らずも実証していると思いますので、これを今年はG7や、G20は非常に難しい状況になっていますが、あと、アメリカが今主導しようとしているインターネット同盟というのがあるんですけども、立ち上がれるかどうかまだ不安なんですけど、こういう取組の中で、民主主義のためのインターネットということを強調していくという流れが非常に強まっていると思います。

あまりポリティカルになり過ぎるのも考えものではあるんですけども、インターネットの本当の根本的なバリューと、それを支えるのがマルチステークホルダーアプローチだということが明らかに認識されます。また、これを改めて強調する必要がある状況になっていると思いますので、今年、来年、そういうことも念頭に置きながら議論していきたいと思っています。

非常に雑駁になってしまって申し訳ないんですけども、今日は以上でございます。

【前村】ありがとうございます。何かコメントや御質問などあれば、クイックにいただければ。

【木村】すいません。JAIPAの木村です。

【前村】お願いします。

【木村】コメントじゃないんですけども、飯田さんをお願いで、IGFについての渉外での説明資料みたいのって、もしかしたら、あったら共有いただけないでしょうか。IGF全体と、あと2023国内招致の経緯とかその辺り。

【飯田】国内招致の件でちゃんとした資料があるかというのは、心もとないですが、ちょっと見てみます。IGFとは何ぞや的なやつはもちろんありますので、共有させていただこうと思いますが、皆さんからしたらこんものかよという感じかもしれませんけれども、そこは御容赦いただければと思います。

【木村】ありがとうございます。よろしくお願いします。

【前村】それでは、ToDoなんですけれども、秋イベントに関しては、プログラムテーマ、テーマ案と、あと会合名案に関して、それぞれプログラム委員会から候補を出して、これは次回の会合で決めるのに向けてメーリングリスト上で議論できるようにする。そんな感じでいいですかね。違うよというのがあったら言っていたかなきゃいけないです。

【山崎】山崎ですけれども。違います。プログラム委員会からというのは却下されたと思っていて、適当な方が手を挙げていただければその方から、いらっしゃらなければ、我々、前村からメーリングリストに投げて諮るということになったと思います。

【前村】まず、今あるものは共有されているから、いいんだよね。

【山崎】もうちょっと絞るという話じゃなかったでしたっけ。

【前村】その辺はどうなんだろうな。

【上村】もうちょっと絞るということだったような気がします。2択か3択にしてくれというお声がありました。

【前村】分かりました。じゃあ、それがToDoですね。

会合名に関しては、何かでっち上げて、週末の中でやろうと思います。

NRI組織枠組みに関しては、今日、資料を皆さん共有しましたので、それを皆さんに御覧いただいて、コメントいただきたいと思います。それを受けながら固めていきたいというふうに思っています。

それで、次回なんですけれども、3週間後というのは、今日はちょっとだけ早いんですけれども、28、4、11、18ということで、4月18日、同じ時間17時ということで、レギュラーの時間でやろうと思いますけれども、いかがでしょうか。それでは、18日で次回会合をやろうと思います。

タイムキーピングがあまりよろしくなくて大変申し訳ありませんでした。本日もお時間いただき、御参集いただきましてありがとうございました。これで活発化準備会合をお開きとしたいと思います。ありがとうございました。